

この冊子を利用していただくにあたって

この冊子には福岡県内の河川で見られる水生昆虫及びエビ、貝などの底生動物をできるだけ広く記載しています。しかし、p.60～68につけたリストからもわかるように、全てを対象にすると、膨大な数となります。そこで、①野外での観察を考慮して肉眼である程度識別可能な科レベルの分類群（生物をグループ分けする場合の単位）を対象に、②福岡県内の河川で見られる生き物をできるだけ広範に、③水辺の観察会等がよく行われる夏季の中下流部で見られるグループをできるだけ多く取り上げることが念頭に選びました。

この冊子では、福岡県内の河川で観察される代表的な生き物を科ごとにまとめています。例えばエルモンヒラタカゲロウは上の表のようにヒラタカゲロウ科に属します。ヒラタカゲロウ科の中にも多くの属や種を含んでおり、1つの科の中に体型や色彩の異なる種を含んでいる科は、できるだけ複数の写真を示しています。

水生昆虫も他の昆虫と同様に卵→幼虫→（^{さなぎ}蛹）→成虫と変態を行いますが、河川中で見られるのは主に幼虫の時期で、本冊子では特に記していない場合は昆虫については幼虫の写真を示しています。しかし、カメムシ目とコウチュウ目では成虫でも水中生活を行う種を含んでおり、成虫の写真を示している種もあります。また、主要な生き物については水の中にはいませんがその成虫の写真も載せるようにしました。

この冊子の中で、写真と一緒に示した線はおおよその体長を表しています。しかし、十分に成長した大きさを表していますので、季節によってはより小型の個体が見つかることも多いと思われます。

水生昆虫では種類によってほぼ一年中河川中で見られる種類と、卵や微小な幼虫の状態であるために季節によってはほとんど見つからない種類があります。このような種類については成長した幼虫が見られる季節もできるだけ記すようにしています。また、河川内の上中下流域のどのような場所に主に生息しているかについても記していますので、このような情報も参考に見つかった生き物を調べてみてください。

なお、平成13年3月に刊行された「福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック 2001—」（本文中では「福岡県のレッドデータブック」と略記）に記された水生生物についてはその旨記述しており、河川における希少生物の保全のための資料としても役立てていただけるように配慮しました。

また、この冊子の p.60～68 に、福岡県保健環境研究所環境生物課でこれまでに県内の河川で行った様々な調査等で確認した生き物のリストを載せています。また、それらの生物がレッドデータブック等に記載された希少種や外来種に当たるかについても示しています。観察会や調査結果の検討の際に参考にして下さい。

分類群名	例
界	動物界
門	節足動物門
綱	昆虫綱
目	カゲロウ目
科	ヒラタカゲロウ科
属	ヒラタカゲロウ属
種	エルモンヒラタカゲロウ

本書の使い方

カゲロウ目

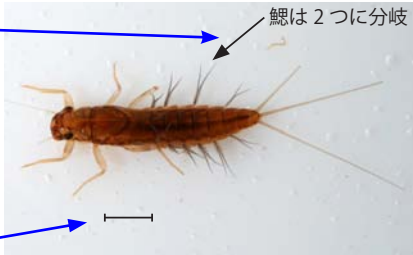
目別に色を統一し、巻末のリストとも合わせて見やすくしています。

トビイロカゲロウ科 (カゲロウ目)

光沢のある茶褐色をしたやや平たい小型のカゲロウです。福岡県下にはトビイロカゲロウ属、ヒメトビイロカゲロウ属、トゲエラカゲロウ属の3属が生息しています。細長い体型でコカゲロウ科に似ていますが、体はより平坦で、^{えら}鰓がコカゲロウ科のように丸くならず、分岐していることで区別されます。

科の説明。生き物は科ごとにまとめてあり、最初に科に共通する特徴を記しています。

他と区別するための特徴は矢印で示しています。



写真の下の線はおおよその体長を示しています。

ナミトビイロカゲロウ
上流から中流部の流れが緩やかな場所に生息しています。鰓は2つに分岐しています。



夏季に中流部で観察する場合には、ヒメトビイロカゲロウが普通に生息しています。鰓をよく見ると3つに分岐していることがわかります。

いくつかの種については体長を表す線の上に実物大の写真を重ねて体長のイメージがつかみやすくしています。

写真の下には、写真の種の種名と生息環境や見られる時期、形態的特徴を記しています。ここに「〇〇科(属)の一種」と書かれているのは、幼虫では科または属以下に分類することが困難な種です。また、昆虫の仲間で「成虫」と書かれていないものは全て幼虫の写真です。

体長についての注意

カワゲラ、カゲロウなどの場合



トビケラの場合

